

新編 金瓶梅
 馬琴作
 六集 上
 豐國画



Gōkan: (No. 0
 Shimpin Kimp
 Book 6--10.

~ 13
 3724
 6

13
24
6

馬琴作
國貞画



和泉屋市兵衛版

新編 金瓶梅第六集上帙

壹

天道善の與も善の天理の八より人への教ふ所以天理の自然なれば之
 是を以て天の命なり又八旬の翁媪の人の善悪邪正を見れば彼は悪此は善と
 解するも然るに未だ非の境の然るに四干あり其は何ぞ尋
 るに我底の自心から人の鹿の最良を如く人の邪正を知るも際りて已が愆
 非理悪悪と善と思ふて諫を怒るも前勝の臆断の迷ふ程らに愚
 夫愚婦を佛は一切衆生と名けり世話中は經文より佛の善巧方便
 なる小説神史を言勸懲を宗とてある中も最小にて浅くするを赤本と合
 巻物の本まも示す下田地のあはれを戲けき中用意ある新版新編金瓶梅
 今茲の既集の筆の筆の似けり堅勁芳しくまて述作と枝元の責を
 塞ぐ哉嗚呼其哉吾等吾等秀稿をひるものく是を自序とす

天保十年孟春吉日此書刊版の前殊筆と早々と馬琴識



四時禽

第一 春禽

亢龍の悔
子も云事歎
舞鶴

志貴實一郷
守真

不遣小僧
秘事松



順礼
躬五郎

四時禽第二

夏鳥
禱破せし杖を
かき夜やほと
きく文因亭

淡路の
野梅



順礼
小衿



福六 長都 長頭

秋會
初雁也清凉
殿之孫廂馬馬

四方屋
内侍

三毛每集六集



四時會第三雜鳥
脚と背鷺ほと
黒さゆ此と那
し

六條娼妓
藻苺

北利木之助好香

金瓶梅集六集

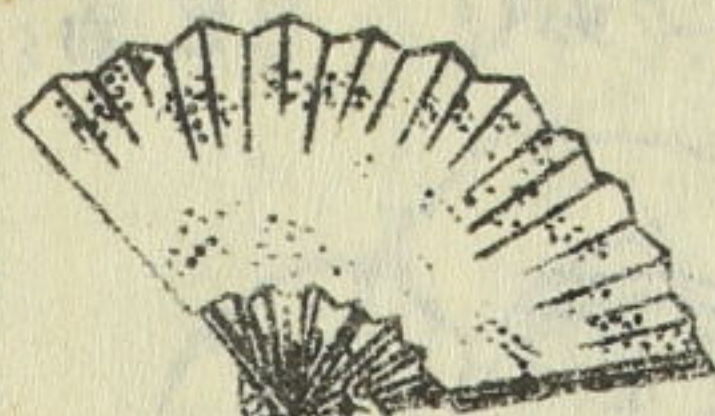
四時禽第五

久米谷
造酒進
清妙

冬鳥
鶴鴿やうう

林川

羅文

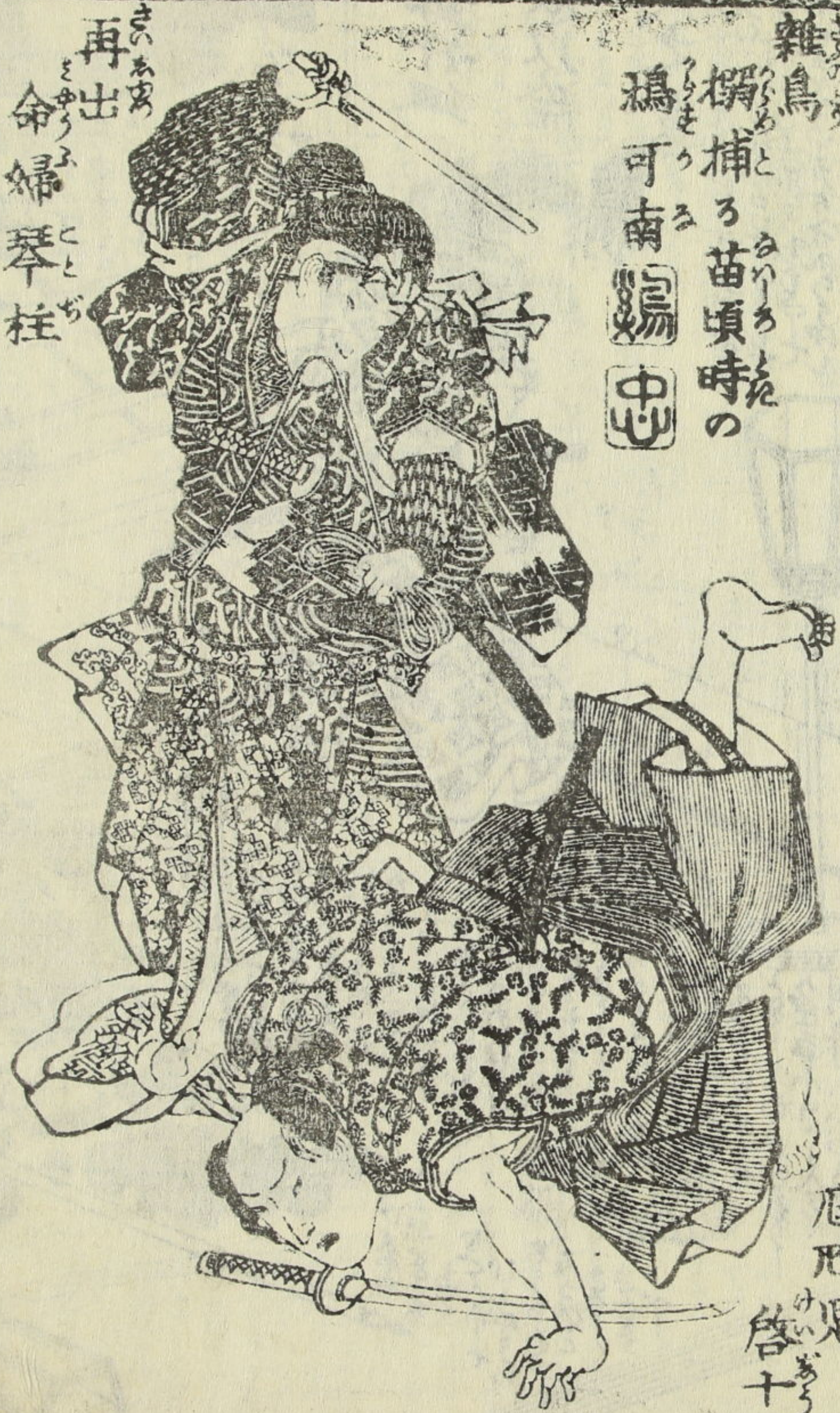


戸無
儀澄杖
繩

四時禽第六

雜鳥

欄捕る苗頃時の
鴉可南陽中心



再出

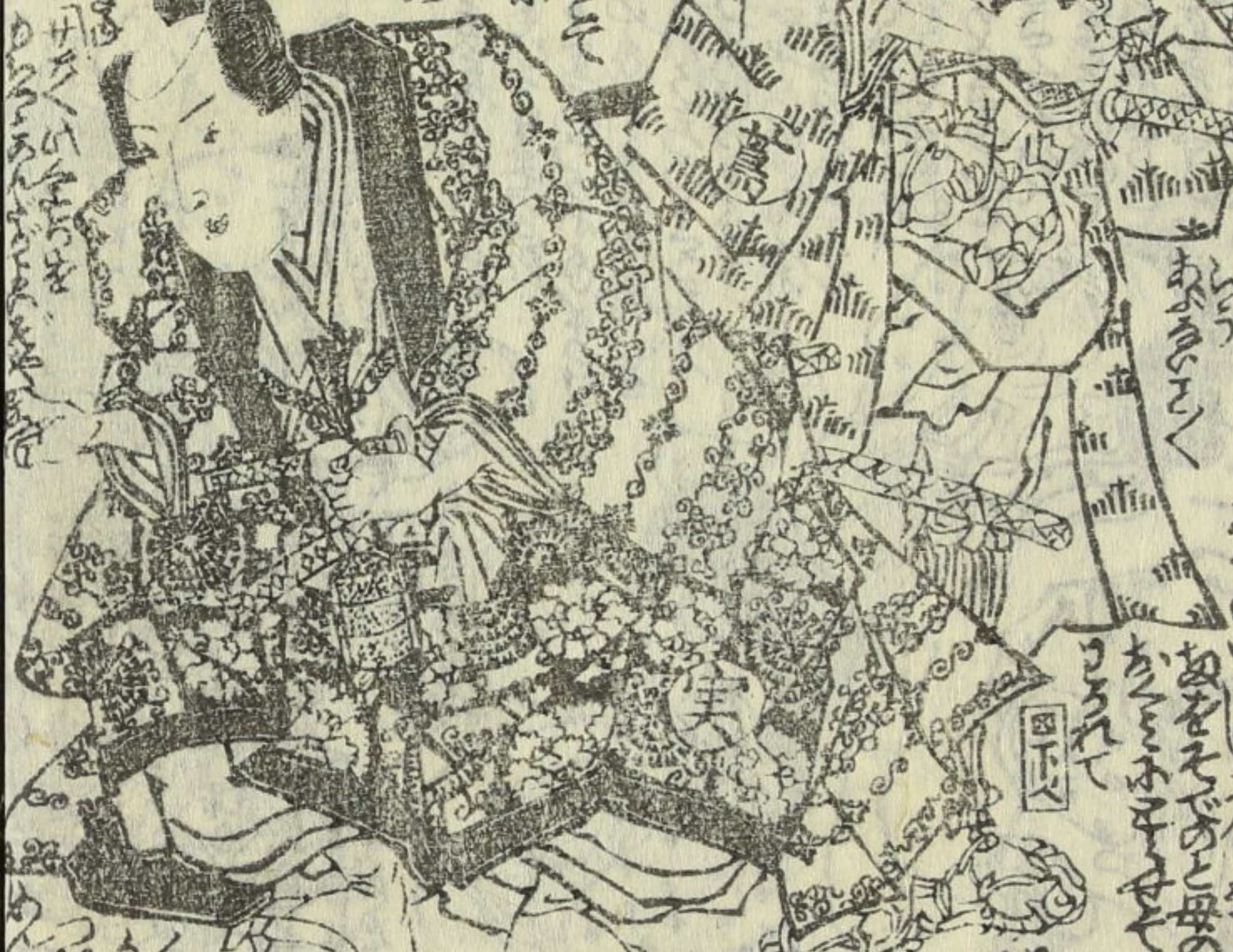
應心見
啓十

再出
命婦琴柱



西門慶見了這人，心裏好惱。因問道：「你這人，怎麼在此？」

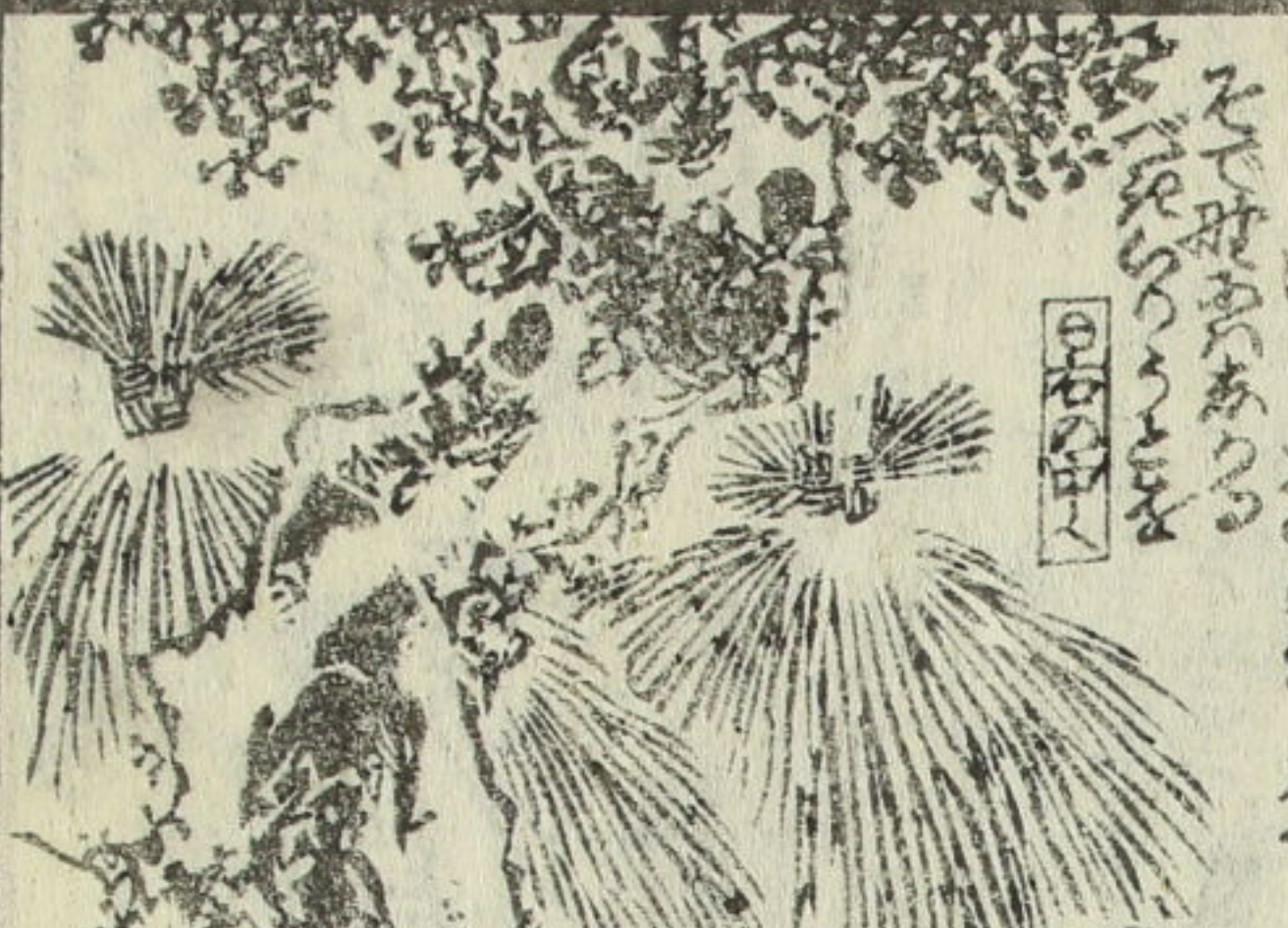
那人道：「我這人，是來此處尋人。你這人，怎麼在此？」



西門慶道：「你這人，怎麼在此？」

那人道：「我這人，是來此處尋人。你這人，怎麼在此？」

西門慶道：「你這人，怎麼在此？」



西門慶道：「你這人，怎麼在此？」

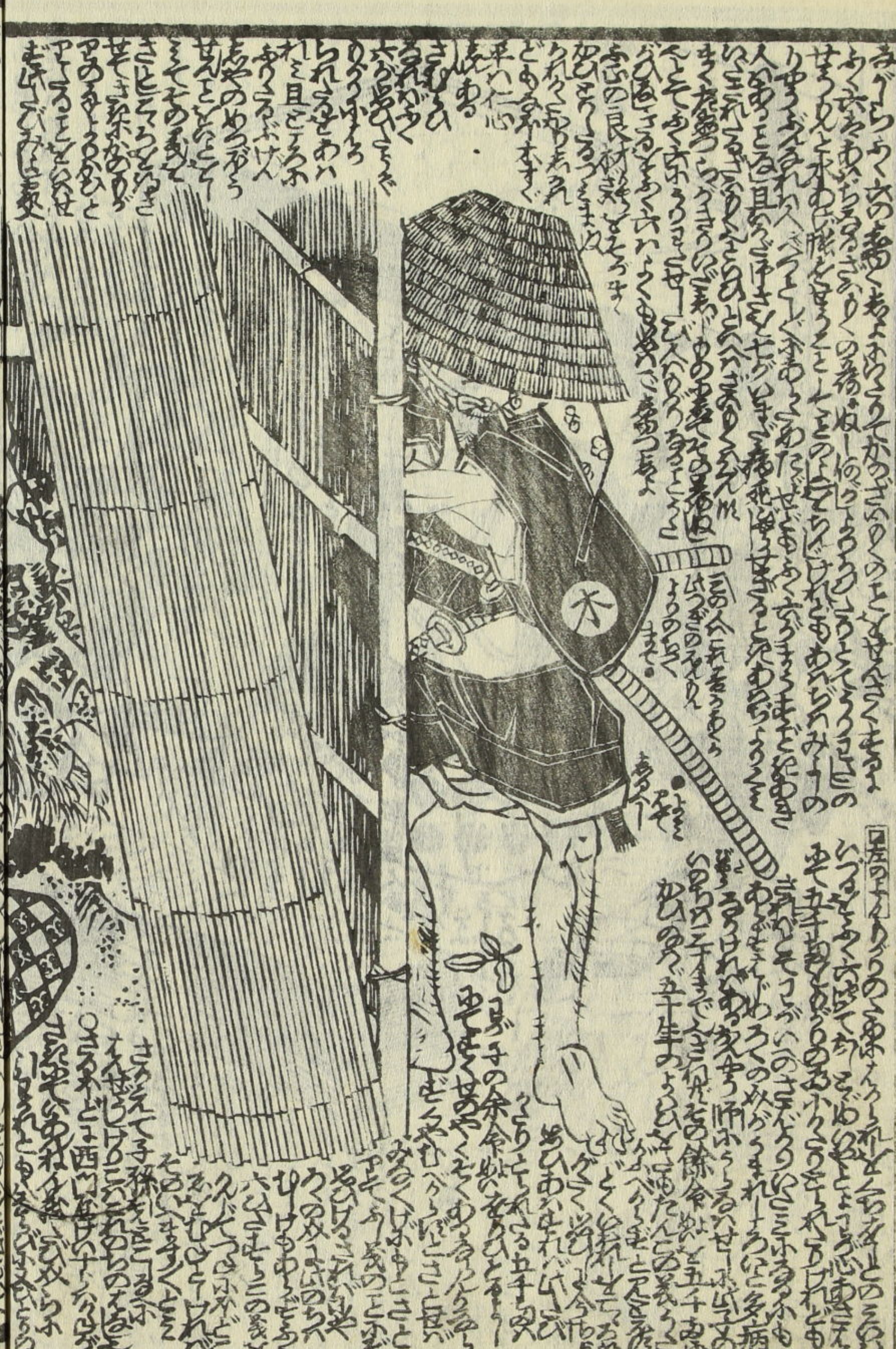


西門慶道：「你這人，怎麼在此？」



Vertical Japanese text columns above the illustration, likely providing commentary or a narrative context for the scene.

Vertical Japanese text columns below the illustration, continuing the commentary or narrative.



Vertical Japanese text columns above the illustration, likely providing commentary or a narrative context for the scene.

Vertical Japanese text columns below the illustration, continuing the commentary or narrative.

あつたふし 八十五
あつたふし 八十六
あつたふし 八十七
あつたふし 八十八
あつたふし 八十九
あつたふし 九十
あつたふし 九十一
あつたふし 九十二
あつたふし 九十三
あつたふし 九十四
あつたふし 九十五
あつたふし 九十六
あつたふし 九十七
あつたふし 九十八
あつたふし 九十九
あつたふし 百



あつたふし 百一
あつたふし 百二
あつたふし 百三
あつたふし 百四
あつたふし 百五
あつたふし 百六
あつたふし 百七
あつたふし 百八
あつたふし 百九
あつたふし 百十

あつたふし 百十一
あつたふし 百十二
あつたふし 百十三
あつたふし 百十四
あつたふし 百十五
あつたふし 百十六
あつたふし 百十七
あつたふし 百十八
あつたふし 百十九
あつたふし 百二十



あつたふし 百二十一
あつたふし 百二十二
あつたふし 百二十三
あつたふし 百二十四
あつたふし 百二十五
あつたふし 百二十六
あつたふし 百二十七
あつたふし 百二十八
あつたふし 百二十九
あつたふし 百三十

あつた本木助
つきのとち
よきてけし
舟をもち
あつた本木
舟をもち
あつた本木
舟をもち



金瓶梅第六集

あつた本木助
つきのとち
よきてけし
舟をもち
あつた本木
舟をもち
あつた本木
舟をもち



金瓶梅第六集



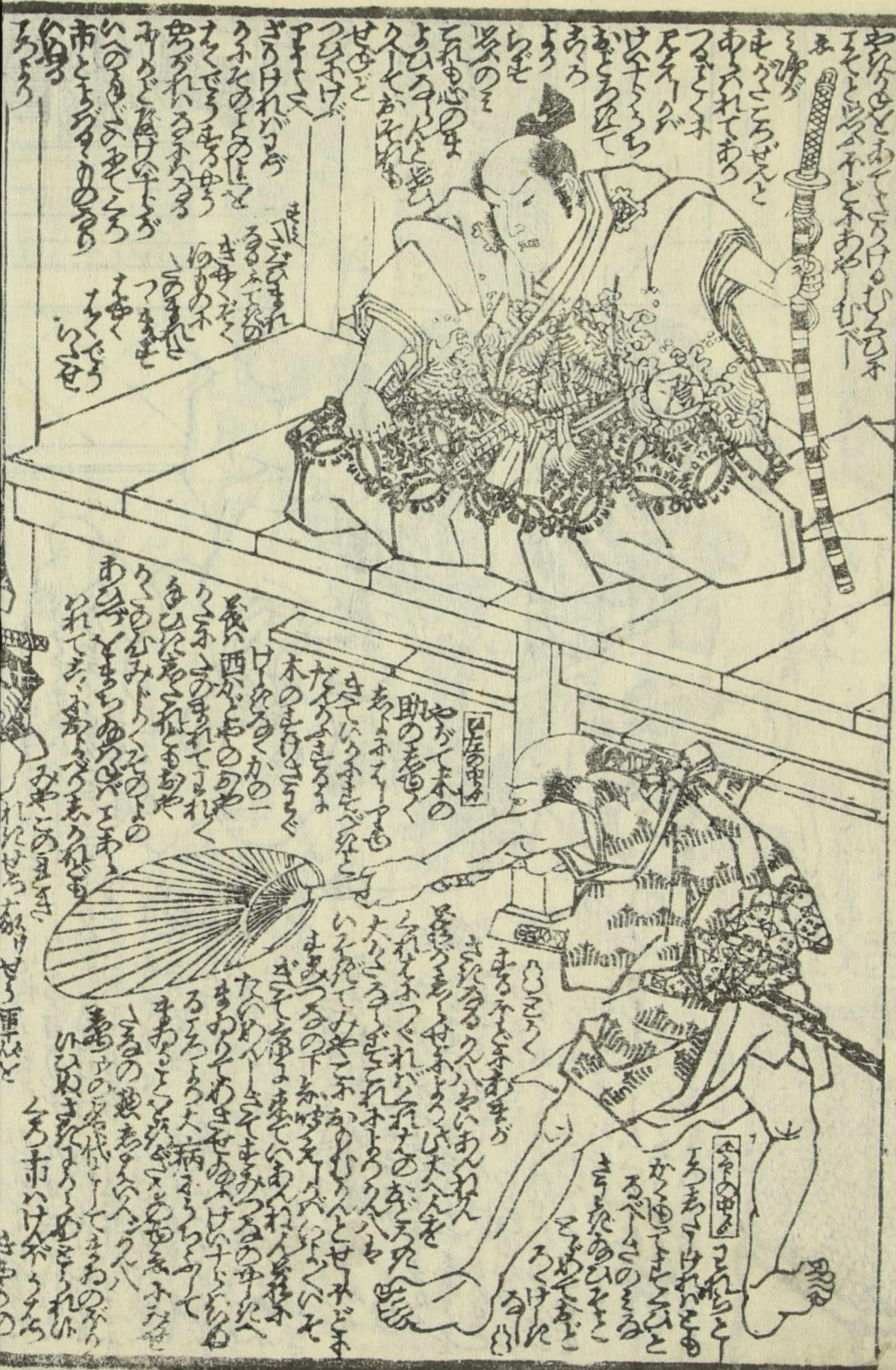
いふも... 九き... 下... 女... 非常

左の上... 金... 女... 大... 小... 大... 小... 大... 小...



いふも... 九き... 下... 女... 非常

左の上... 金... 女... 大... 小... 大... 小... 大... 小...





目を見てもいふもなきに...
かといふは...
母といふは...
かといふは...
母といふは...



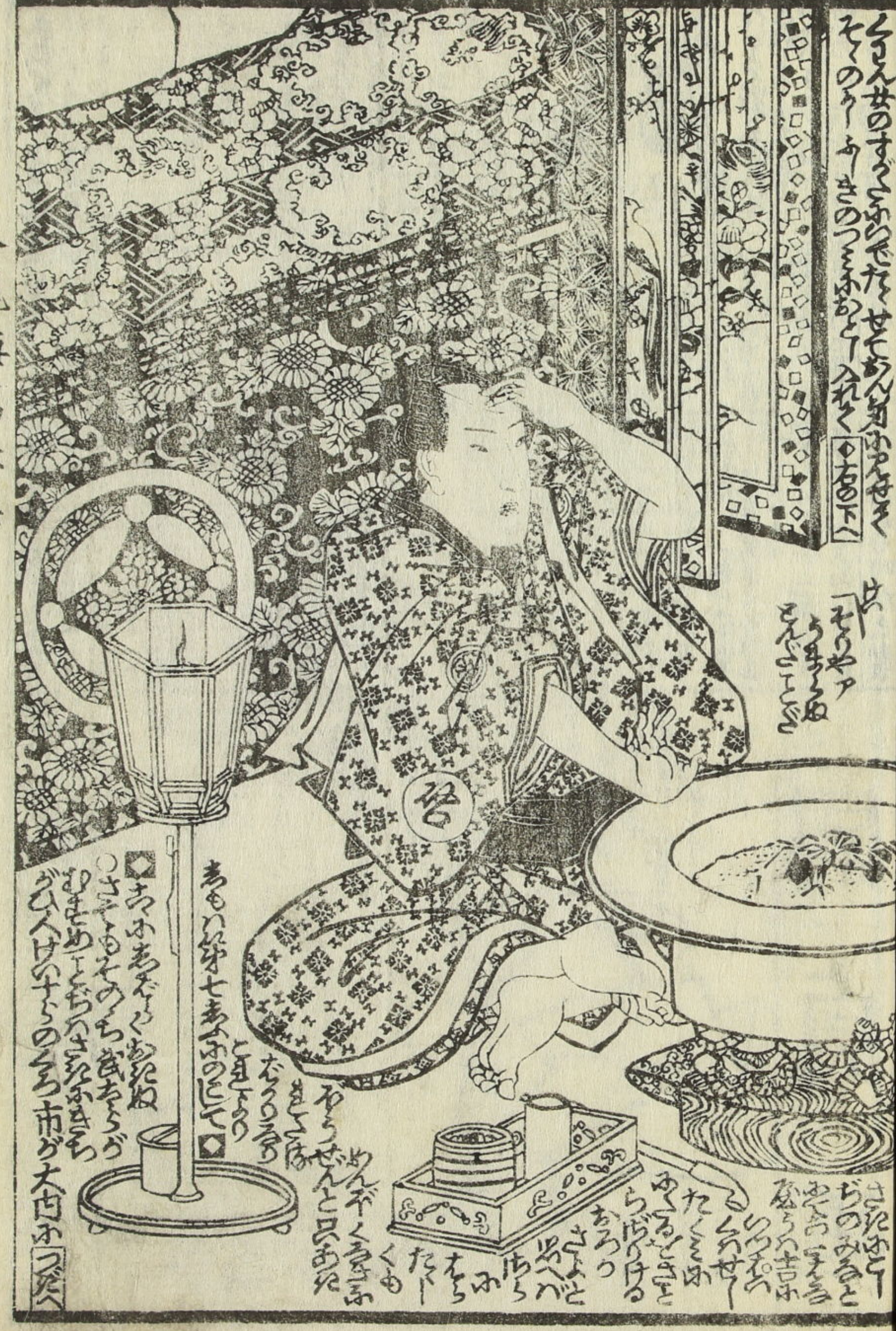
目を見てもいふもなきに...
かといふは...
母といふは...
かといふは...
母といふは...

目を見てもいふもなきに...
かといふは...
母といふは...
かといふは...
母といふは...



おんえかめこのつげくよまことせまよとく
久つたはそのついでいあんねんをあそ
かへまおそのつかみあひこせりみ
さるやねをいこせせしりあふりやふの
まてあまこねんをあらがひて末
たるまおりのてまき入るどくせつなま
そらありのてあひあひあねねをあらがひ
やうつたのまおあひりくこるあへかへん
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末

おんえかめこのつげくよまことせまよとく
久つたはそのついでいあんねんをあそ
かへまおそのつかみあひこせりみ
さるやねをいこせせしりあふりやふの
まてあまこねんをあらがひて末
たるまおりのてまき入るどくせつなま
そらありのてあひあひあねねをあらがひ
やうつたのまおあひりくこるあへかへん
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末



おんえかめこのつげくよまことせまよとく
久つたはそのついでいあんねんをあそ
かへまおそのつかみあひこせりみ
さるやねをいこせせしりあふりやふの
まてあまこねんをあらがひて末
たるまおりのてまき入るどくせつなま
そらありのてあひあひあねねをあらがひ
やうつたのまおあひりくこるあへかへん
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末

おんえかめこのつげくよまことせまよとく
久つたはそのついでいあんねんをあそ
かへまおそのつかみあひこせりみ
さるやねをいこせせしりあふりやふの
まてあまこねんをあらがひて末
たるまおりのてまき入るどくせつなま
そらありのてあひあひあねねをあらがひ
やうつたのまおあひりくこるあへかへん
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末
まてあまこねんをあらがひて末

馬琴作



國貞画

あつて入つては... 家傳神女湯... 精製奇應丸... 熊胆黒丸... 婦人産後... 薬茶本家... 賣弘野元... 金葉抄命丸...



湖月百人一首探庫

源氏絵巻 女今川入

繪本名頭武者部類

森玉百人一首

源氏絵巻 中本 全

姿百人一首小念珠

女用玉指

女用玉指... 女用玉指... 女用玉指...

鶴賀新内正本所

和泉屋市兵衛

